



花が藍色に染まります

液に浸された布が酸化して藍色に

藍の色と白のコントラスト

1月15日(水)、黎明観の「藍工房」で藍染め講習会が始まりました。

全7回で行われる今回の講習会では、型をあてて染める「型染め」や模様部分を口ウで染まらないようにする「口ウケツ染め」、模様の輪郭などを縫い、その糸を引き締めて染める「縫い絞り」など色々な手法を使い、艶やかな藍の色が生えるデザインに染め抜くことができます。

参加された皆さんは、藍独特の深い青に染まったそれぞれの作品に誇らしい笑みを浮かべていました。

どの札？真剣な眼差しで

1月19日、お正月の風物詩、「新春みんなで百人一首」が武道館で開催され、今年は14チームが参加しました。

北海道独特の下の句だけを読み上げて取るルールで、3人1チームで戦います。

「勝ち負けにこだわらずに、仲良く楽しんでください」との伊達政宗歌留多倶楽部の板谷会長からの言葉があり、会場内は和気あいあいとした雰囲気の中で楽しそうに札のやり取りをしていました。



お母さんと一緒にがんばるぞ

元気に歌う東小学校の皆さん



「だてラジ宅配便」で 寒さを吹き飛ばす元気な声を届けます

1月23日、東小学校でFMびゅう「だてラジ宅配便」の収録が行われました。

子どもたちの元気な声が届くこの放送も残すところ今回を含めてあと2回です。

5年生約70名が校歌と「大空と大地の中で」を歌う様子を収録した後、12名の児童がひとりずつマイクの前に立ち、6年生からの鼓笛隊の引き継ぎや姉妹校の巨理小学校が来訪したときの様子などを紹介してくれました。

虹の橋保育園地域交流事業 演劇「ソメコとオニ」観賞

1月10日、虹の橋保育園で、うめのご児童クラブとの地域交流事業が行われました。

この催しは、同園の児童がふだん顔を合わせない小学生のお兄さんお姉さんと一緒に楽しい時間を過ごし社会性を育むことを目的に毎年開催されているもので、今年は劇団さっぽろの演劇「ソメコとオニ」を観賞しました。怖がられるはずの鬼が無邪気な女の子に翻弄されるユーモアを表現した演劇に、児童らは笑顔いっぱい楽しんでいました。



オニがかくれんぼで見つけた

おごそかな空気が漂います



初点式がしめやかに行われました

1月13日、茶道裏千家淡交会伊達支部による「初点式（はつだてしき）」が行われました。

例年行われているこの催しは、年の初めに茶道の始祖である千利休師匠へお茶をお供えたあと、お流れとして練り上げた濃茶を参会者で味わい、新年を慶ぶものです。

また、その後に行われた「初茶会」には、雪が降る寒さの中、230名ほどの会員や一般の市民が訪れて新春の一服を楽しみました。



いつもの実力は 出せた…かな？

1月8日(水)、カルチャーセンター大ホールで「第41回伊達市小中学生書き初め大会」が行われました。

稽古始めの一つでもある書き初め。

古くは新年明けての1月2日に家庭で行われていたものが、今のようにみんなで集まりその出来ばえを競うようになったとされています。

今年は、冬休み中の小学生109人と中学生18人が、学年ごとに決まっているそれぞれのお題に取り組みました。

参加した子どもたちは、少し緊張した面持ちで、墨汁を含ませた筆を力強くふるっていました。



会場内は、参加者の熱気でムンムン

画仙紙に力強い文字がつづられます